
レジの前で

ぽろろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レジの前で

【コード】

N2242B

【作者名】

ぼろろ

【あらすじ】

彼女は客。僕はアルバイト。彼女が僕に微笑みかけてくれたから、僕は…。

「花粉症なんです」
そんな、苦しい言い訳を試してみる。

僕は某コンビニチェーン店のアルバイトだ。これ以外に名乗れる職業はない。

つまりはフリーターである。就職しなきゃとは思っただが、会社に束縛されるといのがどうも苦手。

そもそもこの就職難に僕なんかを雇ってくれる会社なんてないだろうけど。

まあ、そんな訳で僕は今日も就職活動もせずバイトに励む。

本日、コンビニはとても空いていて今は店内に女性客が一人居るだけ。

これで時給800円貰えるなんて幸せ。

こんな小さな事で幸せを感じられる僕自体が幸せな奴な気がしてならないが気にしないことにする。

小さな幸せを噛みしめて生きていくんだ、僕は。

今日はバイトが二人しか入っていない。一人は今休憩中だし、サボり好きの店長は外でたばこをふかしている。

店内にいるのは僕と客が一人だけだ。仕事が無く、話し相手もない

い僕は只ぼーっと突っ立っていた。

そんな僕の前に店内にいた唯一の客が立つ。

「いらっしゃいませ」

言いながらその顔を見て僕は小さく息をのむ。

自然と目から液体がにじみ出た。それは視界をゆがめ喉の奥をつまらせる。

そんな僕を見て客が不審そうな顔をした。

「花粉症なんです」

そんな言い訳を試してみる。

ああ、そうなんですか。

客は言った。

瞬きをすると今度はその液体が勝手に僕の頬を伝う。

「花粉症なんです」

僕はもう一度言い訳した。

ああ、そうなんですか。

客はもう一度言った。

不思議そうな顔をしつつも特に追求する気は無いらしい。それほど只のコンビニ店員に興味はないのだろう。

僕の意志を無視して目は引き続きぼろぼろと液体を流し続けた。

しかし口と手は自動的にマニュアル通りの動作を行っている。

「ありがとうございます」

自分の口が吐いた台詞で接客が終わったことを知る。

早くこの場を去ってくれ！！

そう叫び出しそうなのを堪えた。

しかし僕の願いはむなしく、女性客は僕の視界にはいるところで電話を始める。

僕の目からは相変わらず液体が流れ続けていた。

だって、彼女によって僕の人生は狂わされてしまうところだったのだ。

いや、すでにだいぶ狂わされたのかもしれない。

彼女が居なければ、僕は今無事に就職していたかもしれない。

彼女さえ居なければ、僕は今恋人とデートでもしていたかもしれない。

彼女さえ居なければ…。

僕はまた、彼女が僕の人生をむちゃくちゃにってしまうことが怖かった。

ふと、電話中の彼女と目があつた。

彼女は僕に軽く頭を下げる。

とても、素敵な笑顔で。

僕に、向けた、すてきな、笑顔。

彼女、が、僕に、微笑みかけて、くれた。

それを見た瞬間、ある欲求が僕の頭の中を支配した。

嫌だ。そんなの、僕の人生がむちゃくちゃになってしまふ。

折角、頑張つてやめたのに。

だから、駄目。駄目なんだ。

彼女に関わらない、全うな人生を歩むって決めただろう！

ああ、でも、無理。無理なんだ。

やはり、彼女は僕の人生を狂わせてしまつらしい。

明日から僕はまた、彼女を追いかけてしまつのだろう。

彼女が再び僕を見て、目があつた。

今度は会釈されなかつた。

代わりに、小さく目を見開くと急に震えだす。

僕のことを思い出してくれたのかな？

彼女はそのまま逃げるように店を出た。

去り際、彼女は受話器の向こうに言った。

「昔のストーカーがいる」

(後書き)

前回のコメントを意識して、書いて見ました。少しは精進できているでしょうか？

批判等ありましたら、コメントくださると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2242b/>

レジの前で

2010年12月13日18時34分発行